

## わが家のコレクションにまつわるあれこれ

私は、新潟県立歴史博物館で考古学を担当する研究員をしています。幼いころからゾウが大好きでした。かつて日本列島にいたマンモスやナウマンゾウなどの絶滅したゾウたちが、人類とどのように関わってきたかを知りたいという好奇心が今の仕事につながっています。そんな私の趣味の一つは絶滅ゾウのグッズ収集です。子どもが生まれてからは、出張先にある博物館のグッズをお土産にして、父親の仕事やどこに行っていたのかを伝えるツールにしています。今では、家族旅行でも着実にグッズが増えていき、コレクションが旅の思い出を呼び覚ましてくれます。第 21 回目（1 月 24 日～3 月 22 日開催）となる当館のマイ・コレクション・ワールドへの出品は、そんな思い出を振り返ったり、家族一緒にコレクションを並べながら博物館での仕事を伝えたりする良い機会になっています。わが家のコレクションは、家族をつなぐ役割もしてくれているようです。（橋詰 潤）

今回私は、博物館に関するグッズを出品しました。私は博物館が大好きです。なぜかという、父が歴史に関する仕事を私が生まれる前からやっていたので、つねに歴史にふれあう機会がたくさんあったからです。そのおかげで、私は博物館や博物館グッズが大好きになりました。博物館グッズは、それぞれユーモアのある商品がたくさんあるので、ついどれも欲しくなってしまう。私にとって集めたグッズは、どれも大切な宝物ですが、家だと段ボールの中などにずっと眠っていて、なかなか見る機会がありません。マイコレは段ボールの中のグッズを一度に見られるのでとっても楽しいです。あと、博物館の職員さんみたいに、展示をしたりできるので、すごくわくわくします。私が一番見てほしいのは、北海道に二つしかない国宝のうちの一つ、白滝遺跡のグッズです。黒曜石が可愛いキャラクターになっているのでぜひ探してみてください。（出品者・小学 5 年生）



### 絶滅したゾウのコレクション

みなさんはどんな動物が好きですか？私のヒーローは何といってもゾウです。日本では、今は動物園でしかゾウを見ることができません。しかし、かつて日本はゾウの楽園で、ゾウとヒトが同じ時代に生きていたこともありました。ヒトとゾウはどんな関係だったのか？なぜヒトとゾウは一緒にくらし続けることができなかったのか？こうした疑問は、私が考古学の道に進み、旧石器時代の研究を続ける理由の一つにもなっています。

大学生のころから、学問的な興味と趣味にまかせて集めてきたのが今回のコレクションです。しかし、娘が生まれてその一部はみごとに破壊されてしまいました。その時、思わずまだ3才の娘をきつく叱ってしまったことを反省し、今では一緒に楽しむことも心がけるようにしています。今のところ、娘は親の趣味に良くつきあってくれています。日本のゾウはいなくなりましたが、わが家のゾウたちは、親子のあいだを取りもって来ています。



### おおむかしのゾウのコレクション

2019年くらい2回目の出品となりました。その間に娘は小学校1年生になり、今回の展示作業を手伝ってくれるようになりました。

コレクションの中身も、家族でいっしょにつくったものが増えました。

おおむかしのゾウたちは、そのころ陸つぎだったユーラシア大陸から日本列島へやってきました。そのゾウたちは今はもういませんが、わが家にやってきてくれたゾウのコレクションたちは、家族をつなげる大事な存在になってくれているようです。



2019年の展示

2019年度 マイ・コレクション・ワールドパネル

2021年度 マイ・コレクション・ワールドパネル

**わたしの考古学コレクション** 67%

3000 BC

＜ じょうもん (3) 〰️ 🏠 ☰

わたし (小2)

わたしのコレクションを見てください

父

お父さんも かしてるの忘れないでね

わたし (小2)

えーっ！ もうぜんぶ私のだよー

父

だ、だめーっ！！

母

ところで 私がもらっていいのはどれ？

わたし (小2)、父

えっ...だ、だめーっ！！

2022年度 マイ・コレクション・ワールドパネル

**身近な考古学** 67%

3000 BC

＜ 縄文大好き3年生 〰️ 🏠 ☰

大珠ちゃん

2023年の夏に、北東北の世界遺産になった縄文遺跡を旅しました。思い出のグッズを見てください。

ヒスイハンマーちゃん

他にも私が考古学を好きなことを知っている人たちからいただいたものも沢山あります。私がかここで縄文好きになったのは、遺跡などに連れていってくれた両親と、いただいたものをかんさつして楽しいという気持ちのタネを届けてくれた博物館のみなさんのおかげです。いつもありがとうございます。

2023年度 マイ・コレクション・ワールドパネル

## 春を告げる雪晒し

新潟県を代表する織物「小千谷縮・越後上布」はその製作技術が国の重要無形文化財に指定されています。小千谷縮・越後上布の製作には64もの工程があるとされていますが、仕上げの工程のひとつに「雪晒し」があります。

小千谷縮・越後上布の原料は苧麻と呼ばれる植物の繊維です。苧麻の繊維の加工に雪国の環境が適していることから、古くから苧麻製の布づくりが行われてきました。なかでも「雪晒し」は最も雪国の環境を活かした工程といえます。なぜなら、完成した反物を雪の上に広げて置くからです。大雪が止み、雪国の人々にとっては久しぶりとなる太陽が顔を出す2月の終わりから3月の雪晴れの頃に「雪晒し」は行われます。地面はまだ雪に覆わ

れるなか、眩しい太陽光が雪解けを促します。この頃に雪の上に植物繊維の布を晒しておく、太陽光と雪による天然の漂白作用によって、布の白地がきれいに漂白されます。「雪晒し」によって美しくなった小千谷縮・越後上布が製品となり



2025年 南魚沼市の雪晒しのようす

ます。雪晴れの眩しい雪原に横たわる趣向を凝らした反物は、その風景だけでも一見の価値があるほど美しいです。現在は小千谷市、南魚沼市で「雪晒し」の様子を見学できる機会があります。今年開催の催しを以下のURLから紹介しておきます。雪国ならではの風景から産物とその製作技術を知っていただく機会に繋がるといいなと思っています。

南魚沼市：越後上布体験講座 (<https://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/docs/39954.html>)

小千谷市：おぢや風船一揆 (<https://www.city.ojiya.niigata.jp/site/kanko/ojiya-fusenikki.html>)

(岩瀬春奈)